

ガウスの記念碑について (3)

1 『代数に惹かれた数学者たち』

ジョン・ダービーシャー著

松浦俊輔訳

日経 BP 社、2008 年 4 月 7 日 1 版 1 刷

原著は 2006 年発行

には、この記念碑については次のように書かれています。

(p.144)これはガウスによる最初の数学の大成果であり、非常に有名な
ので、ドイツのブラウンシュヴァイクの生誕地にある記念碑に
は、正 17 角形が刻まれている。

【正 17 角形ではなかった】

2 『フェルマーの最終定理に挑戦』(富永裕久著、山口周監修、ナツメ社 1996 年 2 月 24 日)

には、次のように書かれています。

(p.83) ガウスの故郷のブラウンシュバイクには、ガウスを記念する碑は
現在も立っており、そこには正 17 角形の図が刻まれているとい
う。

【正 17 角形ではなかった】

3 「Datei : Braunschweig Gauss-Denkmal 17-eckiger Stern.jpg」と検索する と、ドイツ語版のウィキペディアにつながります。星型 17 角形の写真が ありました。

4 『ゼロから無限へ』

コンスタンス・レイド著

芹沢正三訳

講談社ブルーバックス、1991 年 9 月 15 日第 27 刷

(原著の出版年は不明) (第 1 刷は 1971 年)

には、次のような記述があります。

(p.160) ガウスは、その後無数の数学的業績をあげたのだが、いつ
もこの若いときのこの仕事を誇りにしていた。言語学者にな
ろうか数学者になろうかと迷っていたガウスが、数学者にな
ることに決心したのは、実にこの正多角形作図法の発見であ

ったらしいという説がある。また、アルキメデスの墓石に、円柱に内接する球の図—アルキメデスは、球の体積を求める公式を発見した—が刻んであるように、ガウスは、自分の墓石に正十七角形の図を刻んでおくように遺言したという話もある（実際には、これは刻まれていないけれども、ガウスの生まれ故郷であるブラウンシュバイクの町の記念碑には、本当に正十七角形の図が刻まれてある）。

【正 17 角形ではなかった。】

5 『数学の歴史物語』

ジョニー・ポール著

水谷淳訳

SB Creative、2018年7月20日初版

原著は2017年

には、次のように書かれています。

(p.418) ガウスが78歳で世を去ると、ハノーファーの王はガウスの彫像を建てた。その台座には、ガウスが直定規とコンパスという古代ギリシャ幾何学の道具のみによる作図法を発見した、かの有名な正一七角形が彫り込まれている。ガウスは“数学の王者”として永遠に記憶されていくことだろう。

【正 17 角形ではなかった。】

6 『数学は科学の女王にして奴隷』(II)

E・T・ベル著

河野繁雄訳

ハヤカワ文庫、2004年10月31日発行

原著は1951年

(p.42) ガウスの墓碑には、かれが発見した正一七角形の作図が刻まれているという根拠のない伝説がある。あるときガウスが、アルキメデスの墓には球積問題きゅうせきの作図が刻んであるとキケロが述べていることを思い出して、そのような記念碑を望んだということはあるかもしれない。もしかれが正六五五三七角形の作図を刻んだ記念碑を建てるように遺言したとすれば、遺言執行人は大ピラミッドと同じかそれよりは大きい碑を建てなければならなかったであろう。…

【墓碑と記念碑の混乱がある。ただ、原著の出版は古い】

7 『対数 e の不思議』（堀場芳数著、講談社ブルーバックス）

1991年3月20日第1刷

(p.27) ガウスは死に臨んで「自分の発見した正 17 角形を墓石に刻んでくれるよう」遺言したので、今でもその墓石は、ブラウンシュバイクに残っています。

また、そのときの国王は彼のために記念碑を建て、その碑面に「数学の元首 (Mathematicarum Princeps)」の文字を刻ませています。

【ガウスの墓はゲッチンゲンにあります。また、ブラウンシュヴァイクの記念碑には上記のような文字はありませんでした。以前にはあったのかどうか不明。】